

## 2000年11月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では極渦は弱く、高緯度は広く正偏差に覆われた。ヨーロッパから中国、日本にかけて引き続き「負・正・負・正」の偏差（ユーラシアパターン）が分布した。太平洋から北アメリカにかけても波列状の偏差（PNA パターン）が見られた。偏西風は西部アジアから太平洋にかけてと北アメリカ付近で平年より強かった。

850 hPa 高度および風ベクトル分布図によると、東部を除く熱帯太平洋は東風偏差が、インド洋南東部からオーストラリア北部にかけては西風偏差が卓越していた。200 hPa 大規模発散域はカリマンタン島とニューギニア島に分かれて存在し、全体に平年より南西側に偏っていた。日付変更線東側の熱帯太平洋10°N 付近に平年には見られない強い発散域が見られ、北偏して強い ITCZ と対応していた。SOI（南方振動指数）は+1.9（暫定値）と大きな値になった。

### 世界の天候

- ① 日本南部の高温・多雨
- ② マレーシアの高温
- ③ インド北部の高温

- ④ ヨーロッパ北部からチュニジアの高温

ノルウェーのオスロで4.5°C (+6.0°C)。

- ⑤ ヨーロッパの多雨

フランスのニースで399 mm (378%)。

ヨーロッパ西部の各地で洪水の被害が発生したほか、イギリスでは過去234年間で最も雨の多い秋となったと伝えられた。

- ⑥ トルコ周辺の少雨

トルコのサムスンで11 mm (13%)。

- ⑦ 米国中西部と南部の多雨

米国南部のガルベストンで363 mm (395%)。

- ⑧ 米国の低温

米国のソルトレークシティで-0.2°C (-5.0°C)。

- ⑨ インドネシア南東部からオーストラリア北東部の低温

オーストラリアのマウントアイザで26.5°C (-2.7°C)。

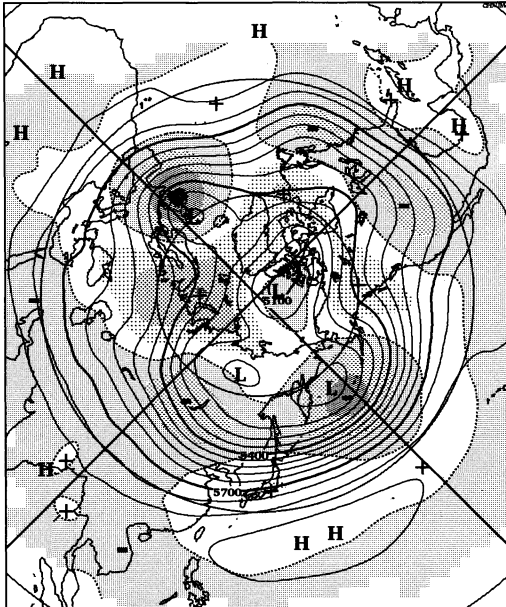
- ⑩ オーストラリア東部の多雨

オーストラリアのチャールビルで302 mm (774%)。

オーストラリア東部では、大規模な洪水により約350億円の農業被害が伝えられた。

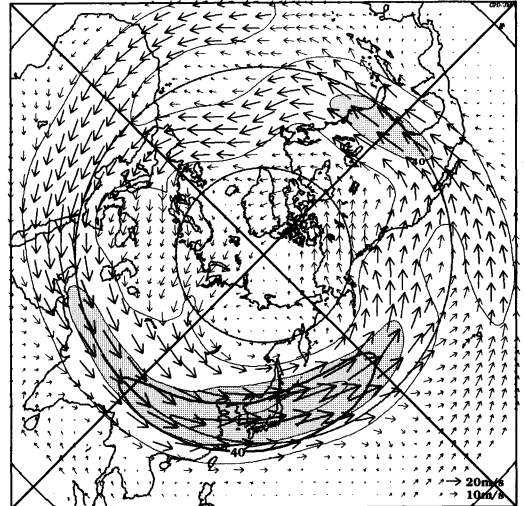
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 藤田 匡)

anomalies (m)  
-360 -300 -240 -180 -120 -60 0 +60 +120 +180 +240 +300 +360



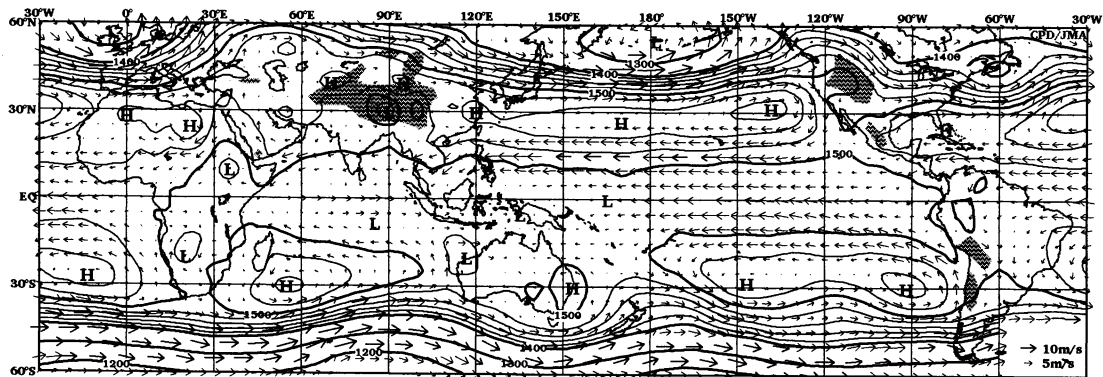
2000年11月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。

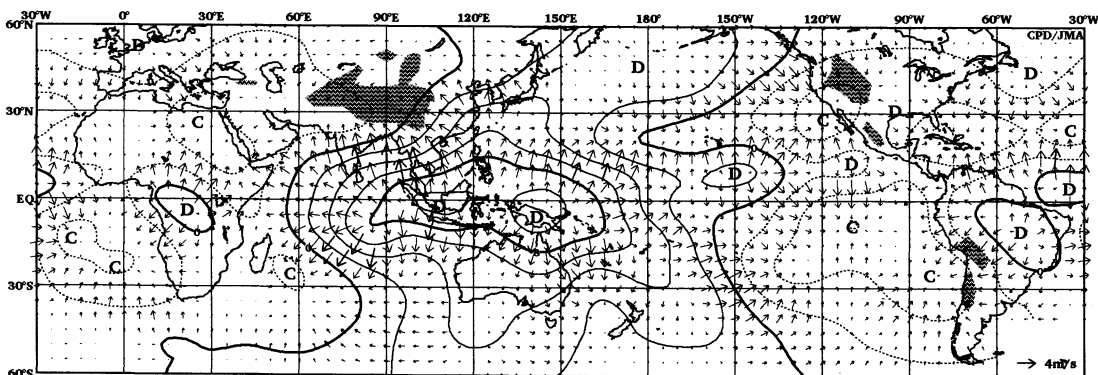


2000年11月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

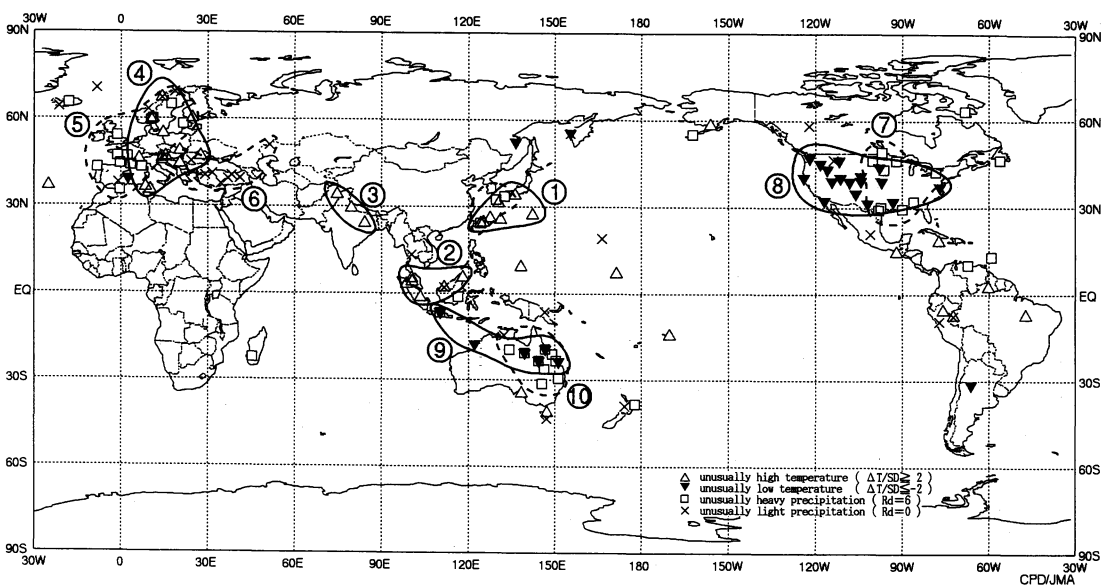
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は平年で40 m/s以上. 平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



2000年11月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



2000年11月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2000年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.